

出題のねらい

英語の基礎力を正確に習得できているだけでなく、その基礎力を日常生活やアカデミックなシーンにおいて実際に運用できるかを試すことが出題のねらいです。

大問Iは、文法、語法と語彙の基本知識の定着をみています。大問IIの長文は、日本の「道の駅」についての記述です。空所を埋める適当な表現を見つけるためには、文脈を正確に理解するとともに、文法や語法の知識も必要になります。大問IIIは対話の問題です。Kentaが履修している英語の授業の課題について、Kellyと話し合っています。空所の前後から自然な会話の流れを理解するコミュニケーション能力が、要求されます。大問IVの長文は、スニーカーの人気ぶりについて説明しています。文脈をたどりながら、内容を正確に捉えることが大切です。大問Vは対話形式の英作文です。

【I】

【解答】 (20点)

1	③	2	④	3	①	4	②	5	③
6	①	7	②	8	④	9	④	10	③

(2点×10)

【解説】

- (1) 動詞の不定詞の問題です。
- (2) 関係代名詞の問題です。
- (3) 関係副詞の問題です。
- (4) 接続詞の問題です。
- (5) 助動詞と have to の問題です。
- (6) イディオムの問題です。
- (7) 前置詞の問題です。
- (8) 時制の問題です。
- (9) 仮定法の問題です。
- (10) ことわざの意味を理解していることを問う問題です。

【II】

【大意】

週末にちょっとしたドライブをしたいのなら、人気の目的地は道の駅である。道の駅は地方のあちこちに点在し、地元の農業従事者が自分の生産物を売るための小売り店を提供している。農業従事者によってつくられた食物を売ることで、地元の経済を支援することになる。また、ときおりより安い価格で食物を買うことができ、それはより新鮮かもしれない。しかし、道の駅は地元の産物を買うための場所であるだけではない。自動車であれバイクであれ、長いドライブをする人々にうれしい休憩地でもある。ここでは、飲み物を飲んだり、食物を食べたり、おそらく地元のお土産を買うことができる。ほとんどの道の駅には小さな隣接するレストランがあり、高過ぎない値段の食物をだして、旅の食事休憩ができるようにしている。ときには、道の駅は人々が集合するための会合場所に役立つ。これはとりわけバイク乗りの人たちに起こることで、彼らはみんなで一か所に駐車する。そして、もしも興味をそそるバイクに乗っている人がいると、バイク乗りたちは仲間と会話を始めるであろう。道の駅は日本の生活のお決まりの特色に思えるであろうが、ほんの最近の歴史しかもっていない。1991年に山口県、岐阜県、栃木県で実験的に開始され、1993年に正式なものとなった。この年、総計103の道の駅が登録され、この数字は2020年7月の時点で1180まで増えた。道の駅は、1990年広島市の会議で初めて提案されて始まった。道の駅は地元の人々に追加的雇用や、地元の産物の小売り店、そして、長距離の旅であれ短いドライブの外出であれ、旅行者に休憩場所をもたらした。

【解答】 (30点)

11	⑤	12	③	13	①	14	⑧	15	⑨
16	⑦	17	④	18	②	19	⑥	20	⑦

(3点×10)

【解説】

道の駅はいつから日本に登場し、日本の生活になにをもたらしているのかについて述べています。難易度の高い語彙は使われていませんので、空所の前後の単語に注意しながら、まず入るべき品詞を確認します。そして、文脈から意味を捉えて読み進めると解答を見つけることができます。

【Ⅲ】

【解答】 (15点)

21	⑦	22	④	23	①	24	③	25	⑤
(3点×5)									

【解説】

Kentaが履修している英語の授業で、英語でエッセイを書く課題が出されました。これについて、英語を母語とするKellyと話し合っています。対話文は情報のやりとりになりますから、話の展開に注意してください。

【Ⅳ】

【大意】

ほんの2～3年前の東京の朝早く、多くのホームレスの人たちが、この街の最新流行を追う原宿近隣の建物の外で列をつくっている。彼らはフード・バンクの寄付や健康診断を待っているわけでもなく、福祉援助の申し込みをするために待っているわけでもない。ある店の最新限定版のナイキ・スニーカーを買うために列をつくって立っている。

スニーカー店 Atmos の店長 Hirofumi Kojima は以下のように語る。「お客の中には、ホームレスの人々や学生にお金を払って店の外でスニーカーのために列を作ってもらった人がいた。いまは、お金を受け取って並んでないことを確認するために、身分証明をチェックしている。ドレス・コードがあって、特定の型のスニーカーを履いていないと列に並ぶことが許されない。以前には何百人ものホームレスの人々が通りに並んでいた。」

スニーカーに対する日本の情熱は伝説になっている。バスケット選手マイケル・ジョーダンの人気によって1990年代初めにスニーカー文化が始まった。しかし、ほんとうに急上昇したのは10年後のナイキ・エア・マックス95の登場による。スニーカーへの強い思いが日本をとらえ、エア・マックスのスニーカーが数十万円で転売され、多くのスニーカー好きの人々が最新のモデルを買うために店の外に何日間も列をつくっていた。スニーカーを奪い取られた人々の事例を新聞が報道した。

1990年代のスニーカー熱はついに治まったが、ここ4～5年にわたって新しい波が生じて、以前に現れたどのようなものよりも高まった。ネット上の転売サイトで限定モデルが驚くべき金額で売られていて、東京の最新流行を追う販売地域では、客たちがもっとも人気のある商品を追い求めて殺到するためレジの音が響き渡っている。

Kojimaは以下のように語る。「日本で最初のスニーカー・ブームは1990年代に始まったが、それはスニーカーに興味を持った一部の人々、つまりコレクターにとってであった。いまや、世界中の人々がスニーカーへの興味を共有している。ファッション世界の一部となった。今年は、

クリスチャンディオールとジョーダン、アディダスとプラダのコラボが現れている。かつてなら想像のつかないような事態が生じようとしている。スニーカー文化は以前よりはるかに確立されている。」

2000年に原宿で開店したとき Atmos は日本で最初のスニーカー専門店になり、いまや日本国内に30支店をもつだけでなく、ニューヨークに1店、韓国に2店、タイに2店、インドネシアに1店がある。この夏、この会社はマレーシアとフィリピンでも店を開くであろう。

Kojimaの推定によれば、東京のいくつかの店の客のおよそ半数は海外から来ており、世界的なスニーカーのメッカであるというこの街の評判によって引き付けられたのだ。およそ300足のスニーカーを所有し、スニーカー・インフルエンサーを自称する、ホットドッグ店のオーナーの Yuki Kakiuchi は以下のように語る。「行きやすく、比較的安価だ。ロスアンゼルスに住む若者たちはモールには行けるがメルローズ通りには行けない。東京では、列車に乗って渋谷、原宿、代官山、恵比寿、どこでも行ける。」

千葉県松戸に住む43歳の会社員 Yusuke Takei は日本のスニーカー好きの初めの世代に属する。小学校でジョーダンがバスケットボールをするのを見て初めて心を奪われ、大学生のときに真剣にスニーカーを収集し始めた。いまは、およそ800足を所有し、そのうち600足くらいはナイキ・エア・フォース・ワンモデルである。

Takeiは近くの両親の家におよそ200足を保管しているが、両親はそれに特に満足しているわけではないと認めている。自宅は床から天井まで靴箱でびっしりで、これから今月に結婚したあとは、スニーカー購入を少し抑えないといけなくなるだろうと認めている。

Takeiは以下のように言う。「最近あまり買っていない。1カ月に1～2足くらい買っていると言っていいでしょう。一つのモデルを1足しか買っていません。かつては、1足は履くため1足は貯蔵用に、2足以上買っていた。でもすでにたくさん持っているから、使っているものを履きつぶすことはないでしょうね。」

一般入試／英語(中期)

【解答】 (20点)

26	③	27	⑤	28	⑥	29	⑨
----	---	----	---	----	---	----	---

(順不同OK) (5点×4)

【解説】

- ① 第1段落にある記述は、異なる内容を語っています。
- ② 第2段落にある記述は、異なる内容を語っています。
- ③ 第3段落の冒頭に、Japan's passion for sneakers is legendary.とあります。これが、内容に一致する記述です。
- ④ 第4段落にある記述は、異なる内容を語っています。
- ⑤ 第6段落に、内容が一致する記述があります。
- ⑥ 第7段落に、内容が一致する記述があります。
- ⑦ 第8段落にある記述は、異なる内容を語っています。
- ⑧ 第8段落にある記述は、異なる内容を語っています。
- ⑨ 第9段落に、内容が一致する記述があります。
- ⑩ 第10段落にある記述は、異なる内容を語っています。

【V】

【解答】 (15点)

30	⑤	31	②	(5点)
32	②	33	⑤	(5点)
34	④	35	②	(5点)

【解説】

問1

Bの英語は以下ようになります。

I don't mind doing them at all.

日本語の大意は以下ようになります。

A: 夕食後に皿洗いをするのは嫌だ。

B: ほんとうに?わたしはちっとも嫌じゃないよ。

問2

Bの英語は以下ようになります。

could I have a glass of water please?

日本語の大意は以下ようになります。

A: お茶にしますか、コーヒーにしますか?

B: いやけっこうです、水を一杯ください。

問3

Aの英語は以下ようになります。

I wonder if I can check out this book for a week.

日本語の大意は以下ようになります。

A: この本を一週間、借り出せないかな。

B: いいですよ、大丈夫。